

読賣新聞

2005年(平成17年)7月26日 火曜日

静岡など地殻にひずみ

20、23日 微小な地震も観測

気象庁の地震防災対策強化地域判定会(会長・溝上 恵東大名誉教授)は25日、東海地震の震源域と想定される静岡県西部などで今月20、23日、地殻の伸縮(ひずみ)と微小な地震が同時に起きていたと発表した。この二つが同時に観測されるのはまれで、同判定会では「東海地震に直結する現象ではないが、推移に注意が必要」としている。微小な地震が集中して起きていたのは、想定震源域から西に数十キロの愛知県東部。マグニチュード1未満の地震が100回近く観測された。また、想定震源域にある静岡県浜松市の1地点と、域外にある同市内の1地点、愛知県蒲郡市の1地点にある「ひずみ計」が、地殻が普段より大きく伸縮する変化を観測。微小な地震と同じ期間に同じ場所で、「スロースリップ」と呼ばれる地下のプレート(岩板)の滑りが発生したことが原因とみられる。変化量は、4日間で長さ1キロ当たり100分の1に程度だった。判定会の溝上会長は「伸縮の速度があと2、3割速くなれば、公式な東海地震関連情報である『観測情報』として発表した可能性もある」としながらも、微小な地震やスロースリップの発生域が想定震源域の外であり、伸縮量が小さいことなどを強調。東海地震との

直接的な関連を否定した。震度情報網の点検 都道府県に要請

消防庁

23日に発生した千葉県北西部を震源とする地震で、東京都の震度情報の伝達が遅れた問題を受け、総務省消防庁は24日、各都道府県

に震度情報ネットワークを点検するよう通知した。市町村に設置されている震度計の観測データは、都道府県を通じて気象庁に送信されることから、通知では、気象庁へのデータ送信にかかる時間などの点検を要請。3分以上要する場合、改善を促す。